

環境経営レポート

(2020年度版)

【対象期間 2020年1月～2020年12月】



 紅陵造園株式会社

作成日：2021年3月1日

目次

1.	組織の概要	P-1・2
2.	実施体制	P-3
3.	環境経営方針	P-4
4.	環境教育及び訓練記録	P-5
5.	環境経営目標及びその実績	P-6
6.	環境経営計画の取組結果と評価、今後の取組内容	P-7
7.	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟の有無	P-8
8.	代表者による全体評価と見直しの結果	P-8

1. 組織の概要

1. 事業者名及び代表者名

紅陵造園株式会社 代表取締役 山宮 衛

2. 所在地

本 社 : 群馬県前橋市青梨子町1617-1
一般廃棄物処理施設設置場所 : 群馬県前橋市青梨子町字熊野前1418

3. 環境管理責任者及び連絡担当者

環境管理責任者 : 代表取締役 山宮 衛
連絡担当者 : 山宮 有香里

4. 連絡先

TEL 027-251-9917
FAX 027-251-9993
HP <http://koryo-lg.com>



5. 事業活動の概要

造園工事業、剪定枝のチップ化、施設年間管理、害虫防除、花木の生産・販売

- ◎一般建設業許可 群馬県許可(般-22) 第8809
許可の期間：令和3年2月18日～令和8年2月17日
- ◎一般廃棄物処理施設設置許可 前橋市 第049-0号
許可年月日：平成22年9月14日
- ◎一般廃棄物処分業許可 前橋市 第1013号
許可の期間：平成29年10月13日～令和3年10月12日
- ◎一般廃棄物収集運搬業許可 前橋市 第317号
許可の期間：令和2年10月3日～令和4年10月2日
- ◎産業廃棄物収集運搬業許可 01000164496
許可の期間：平成29年2月24日～平成34年2月23日

6. 事業の規模

法人設立年月日	平成23年(2011年) 1月 4日
資本金	2,000万円
従業員数	7人
事務所床面積	100㎡

7. レポートの対象範囲及び対象期間

対象範囲：紅陵造園株式会社の全組織・全活動

対象期間：2020年1月1日～2020年12月31日

8. 保有車輛等の種類と台数

2 t ダンプ	1	ハイゼットダンプ	1
3 t ユニック	1	軽トラック	2
高所作業車	1	普通乗用車	1
塵芥車(パッカー)	1	普通軽自動車	1
塵芥車(チップパー)	1	小型バックホー	1
ダブルキャブ	1	常用草刈機	1

2. 実施体制



代表者	<ul style="list-style-type: none"> • 経営における課題とチャンスの明確化 • 環境経営方針の策定 • 実施体制の構築 • 環境経営システムに必要な資源、もの、資金、情報を準備する • 全体の評価と見直し
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> • 環境経営システムを構築・運用・維持する • 環境経営目標及び環境経営計画の作成 • 外部からの苦情等の受付と対応、及びその結果の記録
EA21事務局	<ul style="list-style-type: none"> • 環境管理責任者の補佐 • 環境経営目標及び環境経営計画の実施状況の確認 • 文書類の作成・管理
造園部	<ul style="list-style-type: none"> • 環境経営方針の理解と環境への取組みの重要性の自覚 • 環境経営システムの実施

3. 環境経営方針

〔基本理念〕

当社は、この日本に今ある樹木、草花、土などの自然の財産を守るため、そして子どもたち孫たちが安心して住める環境を維持するために、まず地域社会においては自然の植物たちの働きとその重要性を伝え、事業においては自然環境への負荷をできるかぎり削減できるよう努めていきます。

〔基本方針〕

1. 当社は、植樹、樹木の手入れ、庭園造りなどの事業活動において、環境に与える負荷を削減するために次の事項に取り組み、継続的改善に努めます。
 - ①自動車及び機材から排出される二酸化炭素排出量の削減に努めます
 - ②事業活動より排出される発生材については、それを財産（発生財）と考え、適正な管理のもと有効な再利用に努めます
 - ③水の使用量削減のため節水に努めます
2. 事業活動において、環境に関わる法律、規制その他の公的基準を遵守します
3. 地域社会における環境保全の重要性を啓発し、緑化推進のための社会貢献活動に努めます
4. 事業活動で使用する資材は調査・検討の上、再生材料から作られているものを優先的に使用するよう努めます
また、環境に配慮したガーデニングスタイルを提案していきます
5. 農薬等に含まれる化学薬品の使用の削減に努めます

全従業員に当社の環境方針を周知し、従業員一人ひとりが自覚をもって環境に配慮した事業活動を行えるよう環境教育を行っていきます

2020年1月1日改訂
紅陵造園株式会社
代表取締役 山宮 衛

4. 環境教育及び訓練記録

実施日時 2020年4月15日

講師：山宮衛（代表取締役）

参加者：全従業員

実施内容	使用教材
1. 環境教育 ①E A 2 1 活動状況について ②環境関連法規の確認 ③事業活動において想定される緊急事態とその対応 I. 高木剪定中の電線接触・切断 II. パッカー車への投入時の爆発・発火 III. 芝刈り機、刈払機等の燃料への引火 IV. 水道管の破裂 V. 発生材（木くず等）一時置場からの出火 VI. 薬品の盗難	・環境教育資料 ・緊急事態訓練要項
2. 訓練 ①消火器を使用しての初期消火訓練 ②消火器の設置場所の確認	・初期消火手順書 ・消火器

・教育に関する理解度の確認

環境教育及び訓練実施後、アンケートにて参加者の理解を確認した。

・教育及び訓練についての評価及び改善点

アンケートにて参加者の理解の程度を確認したが、薬品管理についての理解が全体的に不十分であった。管理者や使用者が限定していることも要因にあると思うが、伝達の不足が反省される。今後時間を取り、薬品管理については再教育していく。

初期消火手順及び消火器の使用方法については、参加者全員がきちんと理解できていた。

また、想定される緊急事態については、内容の見直しを行い、項目の削除または追加を行っていく必要があると考える。

記録作成年月日 2020年4月22日

作成者 山宮 有香里

5. 環境経営目標及びその実績

環境目標事項		単位	基準年度	年度目標			2020年度実績及び評価			
			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	実績	達成状況	評価	
1 二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減		基準値	1%削減	2%削減	3%削減	3,077	7.65	☹️	
		kwh	2,860	2,831	2,803	2,774				
	(排出係数 0.462)	kg-CO2		基準値	1%削減	2%削減	3%削減	1,422		😊
			ℓ	4,574	4,528	4,483	4,437			
	ガソリン使用量の削減	kg-CO2		基準値	1%削減	2%削減	3%削減	12,663	19.34	😊
			ℓ	10,611	10,505	10,399	10,293			
	(排出係数 2.32)			基準値	1%削減	2%削減	3%削減	15,015	32.28	☹️
			ℓ	4,400	4,356	4,312	4,268			
	軽油使用量の削減	kg-CO2		基準値	1%削減	2%削減	3%削減	29,100	24.98	☹️
			ℓ	11,351	11,237	11,124	11,010			
(排出係数 2.58)			基準値	1%削減	2%削減	3%削減	22,585		😊	
		kg-CO2	23,283	23,050	22,817	22,585				
二酸化炭素排出量の削減 (総量)	kg-CO2		基準値	1%削減	2%削減	3%削減	109.97	35.40	😊	
		t	81.22	80.41	79.60	78.78				
2 一般廃棄物の排出量の削減	t		(再資源化量)	-	-	-	109.61		😊	
		t	80.85	-	-	-				
3 水使用量の削減	m³		基準値	1%削減	2%削減	3%削減	428	1.66	😊	
			421	417	413	408				
4 化学物質の適正管理	-		基準値	適正管理	適正管理	適正管理	-	-	😊	
			-	-	-	-				
5 本業に関する目標 廃棄物の自社処理の割合の増加	%		基準値	1%削減	2%削減	3%削減	23.7	16.18	😊	
			20.4	25.4	28.4	30.4				

※電力の二酸化炭素排出係数は東京エナジーパートナー(2018年度)の調整後排出係数を0.462を使用。

6. 環境経営計画の取組結果と評価、今後の取組内容

環境目標事項		担当	取組内容	実施状況	評価及び今後の取組内容
1 二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減	山宮(有)	・照明、テレビ、ファンヒーター、電気ストーブ、扇風機等の電化製品は、人がいるときのみ使用する（冷房28℃、暖房20℃）	○	5月～8月は空調の最小限の使用の効果により使用量の減少が見られる。しかし、事務系の仕事が9月～12月で増加し、それに伴い電気使用量も増加した。 今後の取組・・・取組内容を継続し、未使用時の消灯を徹底していく。
			・冷凍冷蔵庫は省エネモードで使用し、余分な開閉は避ける	○	
			・未使用時の消灯の徹底	△	
			・熱の入出りの調整(ブラインドの使用、換気など)	○	
	化石燃料使用量の削減	山宮	・社用車使用ルールにのっとり運転する(エコドライブの徹底)	○	仕事量の増加や、遠方での現場管理による長距離の移動があり、それに伴い燃料使用量の大幅な増加につながったと考えられる。 今後の取組・・・取組内容を継続し、エコドライブの徹底を呼びかける。
			・機材の適正な使用方法の遵守、定期点検の実施	○	
			・年間の全車両の走行距離及び使用燃料量より会社燃費を算出	○	
			・必要に応じて、エコドライブ装置にて従業員の走行状況の把握	—	
2 一般廃棄物排出量の削減	山宮	・現場及び事務所等で生じた発生材の分別については、廃棄物管理手順の通り行う	○	1、2月に公共事業からの多くの廃棄物の排出があった。温水除草を使用し雑草の成長を抑制することで、廃棄物の削減にはつながった。 今後の取組・・・取組内容を継続し、さらに公共事業からの廃棄物について一部自社処理できるようにしていく。	
		・現場で生じた発生材は、可能な限り現場で処理(チップ化)する	○		
		・現場で処理不可の場合は会社サイト内にて処理し、防草マルチとして利用する他、堆肥を作成するなど社内でリサイクルする	○		
3 水使用量の削減	伊藤(さ)	・節水のための使用手順ののっとり水道を使用する	○	削減はできなかったものの、軽微な増加で抑えられている。節水の取組みが日常になりつつある。 今後の取組・・・取組内容を継続していく	
		・樹木への水やりは水が堰から溢れないよう必要な下準備を行う	○		
		・毎月の水道メーターの確認	○		
		・節水手順書等の表示	○		
4 化学物質の適正管理	山宮	・使用している薬品のSDSを作成し、保管する	○	今年度はPRTA法に該当する薬剤の使用はなかった。また、管理も適切にできている。 今後の取組・・・取組内容を継続していく	
		・化学物質含有薬品一覧表等を使用し薬品の使用状況を把握する	○		
		・化学物質含有量のより低い薬品への変更を検討する	○		
5 本業に関する目標 廃棄物の自社処理の割合の増加	山宮	・発生材の処理をお客様宅でできるような設備の考察、提案	△	お客様宅での4件をふくめ、自社にて27件処理した。 今後の取組・・・取組内容を継続し、お客様への提案も工夫していきたい。	
		・自社にて処理したチップの有効活用の検討	○		

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無

1. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果及び違反、訴訟等の有無

当社に関する環境関連法規は下記の通りであり、遵守状況を確認した結果、環境関連法規への違反はありませんでした。（遵守確認日 2021年1月10日）

法規制等の名称	当社が遵守すべき事項	遵守状況
廃棄物処理法	・廃棄物の適正分別と保管場所の掲示	遵守
	・一般廃棄物の適正管理（処理業者への委託）	遵守
	・マニフェストの交付と期限内処理の確認	遵守
	・業務実績報告書の提出 1回/年（一般廃棄物収集運搬、処分・前橋市）	遵守
自動車NOx、PM法	・自動車排出窒素酸化物等の排出抑制に努める	遵守
オフロード法	・基準適合表示が付された特定特殊自動車の使用義務	遵守
道路交通法	・道路使用許可証の申請	遵守
農薬取締法	・薬剤の適正管理	遵守
	・農薬使用基準の遵守	遵守
PRTR法	・SDSの取り寄せ、内容確認、保管	遵守
フロン排出抑制法	・第一種特定製品の点検・整備及びその記録の保管	遵守

2. 違反、訴訟の有無

当社は関係当局からの違反の指摘、利害関係者からの訴訟は過去3年間ありません。

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

1. 実施日 2021年2月1日

2. 変更の必要性

	項目	変更の必要性	変更『有』の場合の指示事項
1	環境経営方針	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	
2	環境経営目標	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	
3	環境経営計画	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	
4	実施体制	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	

3. 代表者のコメント

昨年度と同様、二酸化炭素の排出量が基準年と比較して増加してしまっ。電気も燃料も、仕事量に比例し増加していると思われる。

廃棄物については、公共工事の枝葉の処分の一部を自社での処分に切り替えたり、温水除草装置を使用することで廃棄物の発生量を減らすことができたが、仕事量の増加に比例して廃棄物の排出量は基準年より増加してしまっ。

今後も安全第一で、自社での循環型環境システムの構築に向けて、環境への配慮を忘れず事業活動に取り組んでいきたいと思っ。